

多文化共生のための 知的対話AI 基盤の構築

多文化共生 AIユニット

Culturally Responsive AI Unit

LEADER 稲葉 通将

Inaba Michimasa

人工知能先端研究センター
准教授

Artificial Intelligence
eXploration Research Center
Associate Professor

Culturally Responsive AI Foundation for Intercultural Communication

MISSION

AIの偏見（バイアス）可視化と ポスト・グローバル化時代の課題

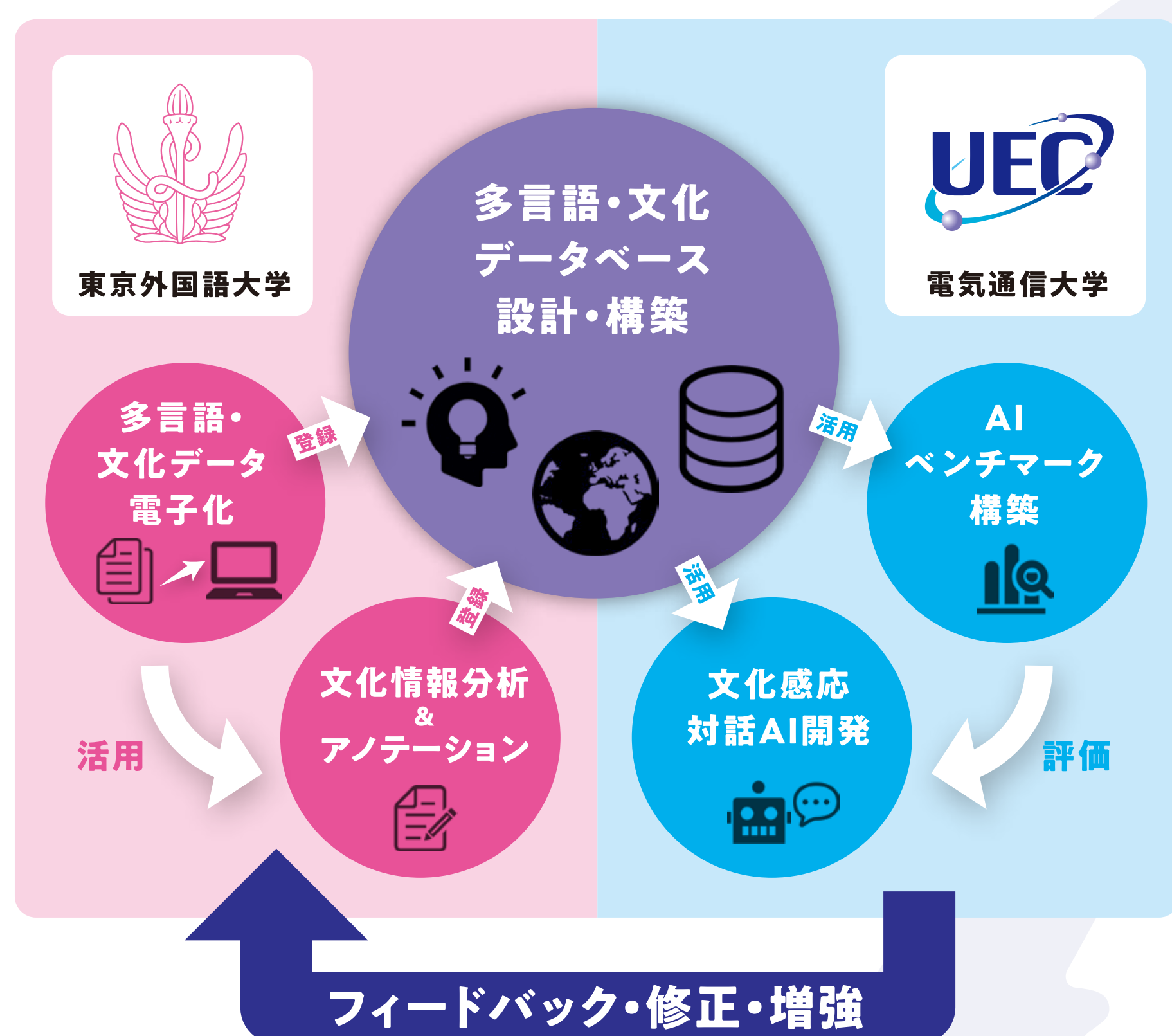
生成AIの社会インフラ化が進む一方で、学習データの英語偏重などによるデータの不均衡性から、AIの精度や信頼度に偏り（バイアス）が生じています。この偏りは、習慣や価値観といった深い知識への対応が限定的であり、AIが多数派の文化に偏った情報を提供し、利用者の文化的多様性への不寛容さを増幅させるリスクを秘めています。ポスト・グローバル化時代において、この差別構造を解消し、多様性への配慮は喫緊の課題です。



ACTION

『文化的感応対話AI』による 誤解を解く「架け橋」の構築

本研究は、異文化間の誤解を解き共感を生む「架け橋」となる文化的感応対話AIの開発を提案します。日本有数の多言語研究センターである東京外国語大学(TUFS)と連携し、超低資源言語を含む多言語・多文化データベースを構築。この構造化データとELSI配慮型の評価ベンチマークを活用し、AIの文化的感度を飛躍的に向上させます。このAIは「異文化間の仲介者・コミュニケーションの解釈支援者」として機能し、多文化共生社会を実現する学際的フロンティアを切り開きます。



VISION

平和構築と社会課題解決へ拡張する AIの新たな役割

文化的感度を備えた対話AIは、人間の無意識的な社会言語行動を可視化し、社会言語学の理論を検証する実験場となります。さらに、このAIが異文化間コミュニケーションの調整役を担うことで、単なる技術応用を超えて平和構築や国際的な社会課題解決へと貢献領域が拡張します。多文化共生の推進、教育現場での異文化理解促進ツールとしての利用を通じて、公平で包摂的な社会づくりを後押しし、国際的な研究拠点形成を目指します。



文化を橋渡しするAIの創出へ
The Genesis of AI as a Cultural Bridge